

国際総合学科

新学科誕生で 新たなスタート

平成25年、20年間の歴史をもつ国際文化学科は、更なる教育内容の拡充と発展を目指し、「国際総合学科」と生まれ変わりました。国際的視野と「コミュニケーション能力」の養成を目指す「国際」コミュニケーション、観光業を中心に地域社会で活躍する人材を育成する「観光マネジメント」、即戦力としての企画力を身につける「現代キャリア」の3コースを設置。新学科設立と同時に、韓国研究の朴貞蘭専任講師、観光学の宮野幸岳専任講師、経営学の植村修一教授が着任しました。また、本学が交流協定を結んでいる中国・江漢大学日本語学科の常梅先生が1年間専任講師として教壇に立ちました。



海外語学実習で 大きく成長!

国際総合学科(文化学科)では、休暇を利用して多くの学生が語学実習に参加しています。今年度も「イギリス・エセックス大学」、「カリフォルニア大学デビス校」、「コロンビア大学・クライストチャーチ工科大学」、「フランス・サヴォア大学」、「韓国・高麗大学」、「中国・江漢大学」に多くの学生が短期留学をしました。現地では実際に生活し、国籍の違いを仲間たちと交流することで、生きた「コミュニケーション能力」を身につけることができます。また、アメリカ実習中には、サービスマンングとして貧しい人々に食事や宿泊場所を提供する施設でのボランティア活動も体験できます。



「PBL型インターンシップ 公開プレゼン」で留学生が 発表を行いました

ホルトホールで開催された「PBL型インターンシップ留学生による公開プレゼン」で、中国・江漢大学から本学に留学している石美(セキ)さんと周雅晶(シウガシヨウ)さんが発表を行いました。PBL型インターンシップとは、企業から出された課題に対し、学生が研究して解決策を提案するもので、石美さんは「中国スイーツのお店を展開する戦略」、周雅晶さんは「カフェをより良くするための改善提案」を発表しました。しっかりとリサーチした上で様々なアイデアを提案し、日本人の感覚では思いつかないようなユーモア溢れるものもありました。課題を出した企業は「これまで気づかなかった事に気づかされた」「ぜひ参考にしたい」など、留学生たちの提案に関心を寄せていました。



ジュリー・ノートバー准教授のゼミ生が、ハーバード大学の学生7名と大分観光を通して、交流を深めました。1日目は、八幡社の総本宮である宇佐神宮を訪れ、2日目は地獄めぐりやうみたまご、高崎山など大分のレジャースポットで観光を楽しみました。参加した学生は、「最初は緊張していましたが、二日間の観光で、生まれ育った国や話す言葉が違っても仲良くなれたような気がします。お別れするときには、寂しさを覚えました。とても短い間でしたが、すごく楽しかったです」と感想を述べました。



大分国際車いすマラソン大会に 参加しています!

国際総合学科(文化学科)では、毎年開催される「大分国際車いすマラソン大会」にボランティアスタッフとして参加しています。これは、通訳ボランティア会Caridoのお手伝いとして海外選手の大分滞在中の通訳や付き添い、大会当日の進行をサポートするものです。参加前には研修会に参加し、車いす競



技や車いすの取り扱いなどを学びます。また、この大会に合わせて本学にて交流イベントを開催、大会に参加する選手を招いて講演会を開いています。今年度は、廣道純さんをお招きし「大分から世界へ、廣道純選手の挑戦」の題目で語って頂きました。廣道さんには、本広報誌「Epistula」vol.33の表紙にも登場していただき、インタビューもさせていただきました。

留学生&常梅先生の お別れ会を行いました



昨年の3月より中国・江漢大学から留学していた石美(セキ)さんと周雅晶(シウガシヨウ)さん、陳妹嬌(チンシユビ)さんの3人と、中国語を担当してくださった常梅先生のお別れ会を国際交流室にて行いました。国際総合学科の教員をはじめ、3人のチューターとしてサポートしてきた木山江里さん、石井佳帆さん、井上翔平さんが参加

し、お菓子やケーキを食べながら、思い出を語りあいました。3人は「この1年間、みなさんのおかげで楽しく過ごせました。観光地を訪れたり、いろいろなことを学ぶことができた。本当にありがとうございました。また、楽しかったという言葉を聞いてとてもうれしかったです。3人を一番あたたく見守ってきた常梅先生も、勉強だけでなく、日本の習慣や文化も随分身につけて、本当に頑張っていたと思います」と一年を感慨深く振り返っていました。日本での経験を活かし、中国でも頑張ってください。

卒業研究発表会を 実施しました



2月5・6日の二日間にわたり、卒業研究発表会を実施しました。卒業研究発表会は、本学を卒業する学生らがこれまでの学んできた学習の成果を発表する場です。一人が10〜15分程度で、これまで自分が学んできたこと、研究してきたことについて発表しました。卒業研究発表



会には学長をはじめ、他学科の教員や1年生も聴講に参加し、発表内容に対し、積極的に質問する姿も多く見られました。

国際色あふれるイベントを実施

芸短フェスタ期間中にさまざまなイベントを実施しました。ヨーロッパ各国の歴史や文化、現在の姿を映像や音楽を交えながら楽しく学ぶ「ヨーロッパ講座」や、「子ぎつね」のヘレンがこした「著者である獣医師・竹田津実氏を招き、命の大切さについて考えた「動物の命を考えるシンポジウム」、東

西の都市を結んでいた交易路「海のシルクロード」を軸に、長い歴史をもつ交流の道を見つめ直し、未来への活用を考えた「海のシルクロードシンポジウム」。便利さの裏側にあるケタイの実態や世界の貧困について考える「国際理解ワークショップ」など、どれも国際総合学科ならではの内容となっていました。



Cover of Epistula vol.33

本広報誌「Epistula」は、各学科の「頑張っている学生」が表紙を飾りました。国際文化学科からは、「第33回大分国際車いすマラソン大会」でボランティアスタッフとして活躍した木敷守さん、河野由芽さん、出口英さんに登場してもらいました。また、特別に車いす陸上競技界のトップアスリート廣道純選手にも表紙撮影に参加してもらい、明るく和やかな雰囲気が出た表紙となりました。

